

# 教育と文化

No.113

平成29年3月1日  
公益財団法人  
愛知教育文化振興会  
岡崎市明大寺町字馬場東170番地1  
電話 0564-51-4819

## 「つなぐ」から「つながる」へ

東三河教育事務所長 都築孝明



「子どもたちの意識をいかにつなぐか。授業における教師の営みは、それに尽きる。」：以前の勤務校で、ある先輩教師から、このような言葉をいただいたことがあります。私自身、今は子どもたちを直接指導する機会にはなかなか恵まれません。が、「つなぐ」という営みは、学校・行政を問わず、教育に携わる者として、究極の営みの一つではないかと感じています。

### 連携教育の必要性

愛知県教育委員会では平成二十八年二月、「あいちの教育ビジョン二〇二〇―

第三次愛知県教育振興基本計画」を策定しました。その柱の一つに、学校種・学校設置者の枠を越えた学びの連続性を重視することを掲げています。

また、東三河においては、地域課題である人口減少への対応として、地域の創生や活性化が急務となっています。平成二十四年の東三河県庁設立を機に、地域資源を生かした振興推進のために、「東三河のことは東三河で」という機運が高まっています。さらに、「東三河振興ビジョン」の策定、「東三河ビジョン協議会」や「東三河広域連合」の設立等、行政関係機関の動きがあり、教育の分野でも、地域一体の教育振興の推進が求められています。

### 東三河小中高特連携教育推進協議会

こうした背景の中で、今年度、東三河小中高特連携教育推進協議会を設立しました。東三河管内八市町村教育長、教育

委員代表、県立高等学校長代表、特別支援学校長代表、公立小・中学校長代表を委員に委嘱しました。協議会は喫緊の教育課題に焦点を当てることとし、第一回（六月開催）は、広域交流や校種を越えた県立と公立での人事交流の在り方や、異校種での教員研修の充実について協議をしました。協議内容は、実際の人事異動事務に生かされたり、新たに職業高校でのキャリア教育研修を計画したりするなど、早速、具体的に効果が現れ始めています。

年度内に第二回（二月）を開催し、その後は予算計上することで、事業の安定化を図ります。今後の協議題としては、法改正の下での特別支援教育、新たな高校入試制度や学科再編の方向性を見据え、たうえでのキャリア教育、命を大切にすることを学ぶ教育や虐待・貧困も含めた生徒指導の問題など、多岐にわたる見込みです。協議題によっては、新たに専門関係機関に委員を委嘱していくことも考えています。

### 「つなぐ」から「つながる」へ

今、日本の社会構造は大きく変化しつつあります。「高度経済成長」から「少子高齢化」、「量」から「質」、「画一」から「多様」など、さまざまに変化する中で、次代を想定した時に、単に「ひっぱる」だけではなく、「つなぐ」こととその結果として「つながる」ことが求められていくことでしょう。

本事業は、機に恵まれ、地に恵まれ、人に恵まれたからこそ、歩み出せたものです。ささやかながら、実践の成果を「つなぐ」こと、還元させていただくことで、これが先駆的なものとなり、やがて、今後の教育課題の解決へと「つながる」ことを願ってやみません。

### もくじ

#### 巻頭言

「つなぐ」から「つながる」へ

都築 孝明

#### 三河教育への提言

大学教育から見た家庭科と被服

そして思うこと 加藤 祥子

#### 三河の文化を訪ねて

三河大浜土人形 北村 恒

#### 三河教育会館の竣工を迎えて

深津 浩

#### 随想

地域の中で、地域とともに

鳥居 弘一

教室の窓辺 鈴木 悠里・水野 美和

平成二十九年出版物の紹介

刊行物を活用した授業 社会の友

平成二十八年個人研究助成

審査を終えて

平成二十八年教育図書出版助成

平成二十八年度かきぞめコンクール

郡市の特色ある取り組み 安城・豊橋

学校教育ポランティアグループ活動紹介

行事予定・編集後記

# 大学教育から見た家庭科と被服

## そして思うこと

愛知教育大学附属特別支援学校長 加藤 祥子



### 豊川大会に参加して

昨年十一月、平成二十八年度愛知県家庭科教育研究会豊川大会が開催されました。

大会主題は「未来を創り出す豊かな心と確かな実践力を育む家庭科教育」、研究主題は「学びを生かし、よりよい生活をめざして実践しようとする子の育成―キャリア教育の視点を取り入れた授業づくりを通して―」でした。この研究主題

を頂いてからキャリア教育について再度考える機会を得ました。家庭科では、「計画する」「実践する」「他を考える」「反省して次に繋ぐ」などキャリア教育

の原点となる実践が多くあることに気がつきました。家庭科は、頭の中で答えが出てくる教科ではなく、試行錯誤して学ぶことの多い教科です。

現在の社会は商品の流通経路を覗けない仕組みに変わってきており、出来上がった商品だけしか見えない社会になりつつあります。被服では「綿を育てる」「糸を紡ぐ」「機を織る」のどこも見ることができません。また、家にミシンがないため服が作られていく過程も見えません。本校創立時の五十年前にはどこかに機械があり、家にミシンがあり、何かしら服作りの過程やその一部を見ることができました。布がどのように織り上

がっていくのか、を見るとミミの意味が分かります。縦糸が張られている様子を見ると此の方向にはもう伸びない事も分かります。服作りを間近で見ると、服がどのような形のパーツで作られるのか、パーツがどのように組み立てられ縫製されてどのような形の服に変貌するのか、一枚の布が裁断されて、立体の体に合ってくる様はまるでマジックのようです。私のようにそのマジックに魅せられて被服の道を将来に夢見た子どもも少なくなかったのではないのでしょうか。

既成服の購入に関して大学生にアンケートしてみますと一年生の最初の頃だったり、作ることに関わらない他教科の学生だと、流行の色や形を選択し、自分のクローゼットの中の物とマッチするか財布の中身と相談しています。これは、手に取らず、目で見て頭の中で考えているだけでアクションはおこなっていません。私が受け持つ被服の授業、特に座学ではなく実際にミシンで縫う実習授業を受けた学生は裏側から服を見るようになり、素材を確認し、ファスナーの付け具合や難しい裏地の縫製をチェックします。それが終わってから表の柄合わせを確かめたり、サイズ、色、流行を確認したりし

ます。「服は既製服があるから、家庭科に作る教育（被服）は要らない」と言った人がいますが、作る教育の効果が出やすいのは、ほとんどが既製服になってしまった被服なのではないかと思っています。

さて、食領域ではどうでしょうか。被服は購入に当たって、川上から川下まで全く見えない領域ですが、唯一食領域は一から関われる教材が豊富です。種から口に入る調理まで見たいと思えば全てに関われます。教材としては多種多様に利用できます。

今回の大会で取り上げたのは味噌汁でした。何回も見せて頂いているのですが、一度も同じと感じたことはありません。自分の家の味噌汁の味を再現し、追求し、おいしさの秘密を解き明かす。対象を絞って食べて喜んでもらえる工夫ができる。嫌いな物でも栄養豊富なら食べてもらえる工夫をする。旬の食材を取り入れバランスや手際を考える。地域との関わりが生まれ、家庭との連携も生まれる。購入することにより値段も考えなくてはならず、他との関わりに思いを込めて作り、褒めてもらえて自信につながる。学び、学びを生活に生かす、良いこと悪いことを気づく。学び方を学び、より良く

していく事を試行錯誤することこそキャリア教育の原点であると思います。

## 衣類の「取り扱い表示」

さて、最近目にした学会誌で中学校での授業体験がありました。本学でも学外の出前授業、出張授業なるものがあります。愛知教育大学では大学受験を控えた高校からの依頼を中心に授業を行っています。

学会誌の授業体験では「取り扱い絵表示の指示に逆らった洗濯をするとうなる？」というテーマで授業がなされたそうです。思い起こすと此のテーマは、本学附属名古屋小学校の家庭科でも十年ほど前に取り上げ、研究授業とした経験があります。授業中子どもたちの実習では行いませんでしたが、先生の行った実験として、一度洗ったらここまで縮み、二度洗ったらここまで縮んだと小さくなっていく毛糸の帽子を見せ、かぶらせてみました。

絵表示を無視するともう着用できない事がよく分かったようで、とても良い反応でした。

昨年十二月一日から絵表示が変わりました。これまでの表示記号には日本語が付いていましたが、新しいものは国際規格の表示記号と同じになり、日本語はつ

きません。国内外で表示が統一されることによって利便性が高まると期待されるようですが、記号の種類が約二倍になり、点の意味、線の意味を知る必要があります。

## 絹の実験

二十年ほど前、絹はまだ高価で、水洗いできず、ドライクリーニンクだけが洗濯の方法だった頃、大学で絹の特性を教えるながら、実際に試してみようと思い、水にくぐらせたことがあります。今では絹は安価で加工が行き届きとても扱いやすくなっていますが、取り扱い表示はくれぐれも従ってください。

さて、その頃のこと、中国からの留学生がシルクの布地をワンピース一着分として三メートルほどをお土産にくれました。そのうち一メートルをきっかり測って水に入れました。しばらくして上げて乾燥させてみますと、一〇%縮んでいました。たぶん二回、三回と実験すれば縮み率は落ちてきますがもつと縮んだ事と思います。同じ頃、絹のTシャツでも実験しましたが、Lサイズで着られない位丈の長い長袖が、何回か水をくぐらせた最終の実験で七部袖に変貌しました。当然着丈も短くなり、着ることができたかどうか思い出せません。

## 綿一〇〇%の形態安定加工シャツ

以前からなぜ綿一〇〇%の形態安定加工ができるのかきちんと知りたいと思いつながら、最近、学会誌の研究レポートで見かけるまで調べる機会を失っていました。被服の学会誌「繊維製品消費科学」二〇一六年十一月号の技術レポートで日清紡テキスタイル株式会社の方が四頁にまとめてくれています。詳細を知りたい方は是非アクセスしてください。タイトルは「ノーアイロンを実現させた綿一〇〇%の形態安定加工シャツの開発」です。私が育ってきた日清紡の「パーマネントプレス」時代は約二十年続きましたが、綿一〇〇%ではなくポリエステルを混紡した素材で実現しました。夏暑いなど着心地はあまり良くありませんでした。それから約十年かかって綿一〇〇%の加工ができるようになり二〇〇九年には洗ってもシワの残らない綿一〇〇%の本格的ノーアイロンシャツが「アポロコット」の名前で発売されました。従来行われていたシルケット加工から液体アンモニア加工に変わり、セルロースの非結晶領域を樹脂剤で架橋結合させて形態安定性能を発現させます。シャツ縫製・プレス後に熱処理を行い樹脂反応させます。このとき繊維内での架橋を均一化させること

で高度のW&W性を向上させたということとです。繊維の断面の形状を見ますと水を含んだ時の綿繊維の形状をしています。確かに水を含むとシワは消えますよね。

シワにならないだけでなく、プリーツ性もあり、縫い目のシワもなく、着たときにできるシワも抑制してくれるそうです。

## 被服と科学

被服は科学と密接に関わっています。

化学は勿論、生物学、物理学、数学など知識がないと失敗もします。絹の歴史、綿の歴史、化学繊維の歴史を紐解くと社会科とも縁が切れません。また小説には人物描写として、着ている服の詳細も記されています。体育では伸び縮みの大きなウエアを着ていますが、これを縫うのはロックミシンという編みながら縫っていく特殊なミシンです。ですから工学とも関係が深いのです。このようにたくさん教科と繋がっているのです、それら一つずつ紐解いていくのも楽しみの一つです。身の回りのいろいろなものが科学の恩恵を受け、たくさんの人を介して役立つものになっていくのは魔法のようです。この魔法を早く、子どもたちに伝えたい。学生にも将来の教育者や科学者として、紐解く楽しさを体験して貰いたい。そのように思っています。